

# 6月議会以降に専決処分された予算と9月議会で可決した補正予算

専決処分とは、緊急で議会を開く時間がない

ときなどに限り、市長が処理すること。

## ■専決処分（7月9日分・コロナ対策）

ひとり親世帯臨時特別給付金費 1億7847万円

## ■専決処分（7月22日分）

令和2年豪雨災害対策費 8億8800万円

・くらし支援金 1億4800万円

・生活移動手段支援金 4000万円

・住宅応急修理支援金交付事業 5億6100万円

・弔慰金 1000万円

・援護資金貸付金 7000万円

・災害見舞金 5600万円

・災害救助関連事務費 300万円

新型コロナウイルス感染症対策費 2544万円

・おおむたプレミアム商品券追加発行分

## ■補正予算（9月議会・可決） 85億8043万円

### I. 災害対策経費 75億9952万円

1 被災者・事業者支援 9億9015万円

被災中小企業等支援事業 2億3000万円

小規模農地災害復旧支援事業費補助3000万円

農業ボランティア活動支援費 300万円

民間住宅借上事業・市営住宅管理 7893万円

住宅応急修理支援金 4億1300万円

生活移動手段支援金 6500万円

避難所設置費 1億3000万円

2 公共施設等災害復旧 61億7743万円

水防対策費 4億5125万円

農林水産施設災害復旧費 26億5524万円

土木施設災害復旧費 18億3145万円

学校教育施設災害復旧費 2億4604万円

社会福祉施設災害復旧費 6505万円

公共下水道事業会計負担金 8669万円

道路維持費 3億6500万円

地域防災がけ崩れ対策事業費 2100万円

町内公民館等施設改修緊急対策事業費601万円

その他 1億719万円

3 その他災害対応 4億3193万円

災害廃棄物処理事業費 4億866万円

防災対策推進費 1164万円

### II. 新型コロナウイルス対策関連 7億4636万円

1 新型コロナウイルス感染症対策 5億8570万円

(1) 市民生活支援 2億8595万円

新生児応援特別定額給付金 7150万円

学校感染症対策事業費（市立学校） 7467万円

学習指導員等配置事業費 2668万円

保育所等感染対策補助 2033万円

(2) 保育施設等の従事者支援 2000万円

保育施設等従事者協力金 2000万円

(3) 感染拡大防止体制整備 2億7976万円

保健センター整備費 2億5306万円

消防活動感染対策事業費 800万円

地区公民館感染症予防対策事業費 635万円

医療資機材確保事業 500万円

### 3 コロナ禍における地域経済の回復と行政運営 1億6066万円

(1) 地域の産業活動の支援 4200万円

中小企業チャレンジ応援事業費補助 2000万円

中小企業アドバイザー事業費補助 100万円

タクシー利用者安全確保対策支援金 860万円

漁業生産基盤整備事業費補助 1040万円

水産業振興対策事業費補助 200万円

(2) 地域の観光物産の振興 7500万円

観光基本計画策定費 1000万円

宿泊施設立地可能性調査事業費 500万円

動物園整備事業費 3000万円

道の駅整備費（魅力向上補助を含む） 2000万円

公園管理費 1000万円

(3) 感染症を踏まえた行政運営 4366万円

キャッシュレス収納事業費、広報活動推進費、

庁舎整備推進事業費、ウェブ会議推進費

III. 上記(災害・コロナ)以外 3億6072万円

IV. その他 △ 1億2617万円

# ふるしょう和秀とやさしさネットワーク

でんわ：090-2517-4005  
ファックス：0944-85-0028  
E-mail: furusho\_net@hotmail.com

# 【第1部：議会報告編】やさしさつなぐホットニュース

住 所：〒836-0041福岡県大牟田市新栄町17-47  
LINE-ID furusho\_net https://www.facebook.com/furusho.net  
けいたいメール: kz\_furusho.1972.08.28.oomuta@docomo.ne.jp

# 「令和2年7月豪雨」の被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます



## 【9月8日の代表質問の様子】

7月号を印刷したのが7月4日。翌々日の6日午後から本市で観測史上最高の豪雨が襲

ました。これまでに経験したこともない恐怖と不安の一晚でした。お亡くなりになられたお二人の方に心から哀悼の意を表しますとともに、本市を含め各地で被災された方々にお見舞い申し上げます。また、本市の一日も早い復興に向け全力で取り組んでまいります。

全国各地で毎年のように50年に1度の大雨に見舞われています。これからは、過去最大よりも激しい豪雨が降ることを想定した防災・減災の取組が必要です。

本市は「災害が少ないまち」として、企業誘致のキャッチフレーズにも使ってきました。今回を教訓に「災害があっても被害が少ない減災のまちづくり」を進めていく必要があります。

みなと校区はじめ市内の至るところで浸水被害がありました。本市は、豪雨災害発生の一環として、大牟田市令和2年7月豪雨災害検証委員会において検証中です。その結論を受け、ポンプ場の

お一人お一人の生活再建に向け、出来る限り対応します  
法律や制度により、実現できないこともあるかもしれません  
せんが、お困りのことがあれば、まずご一報ください。

電話：090-2517-4005 LINE-ID furusho\_net  
床下浸水も「準半壊に至らない」以上なら義援金が出ます



整備を含め、様々な減災対策に取り組む予定です。

その中でも最も大切なことは市民の皆さんのお一人お一人が防災・減災意識を持って頂くことです。私は豪雨後数日間、明治校区と旭町、栄町、東新町周辺を電動車いすで見て回り、地域の方から貴重な体験談を伺いました。それぞれの地元校区で浸水マップを作るなどの防災・減災活動の必要性を痛感

します。また、「災害は平等だが避難は平等ではない」状況が本市でも起きました。高齢者、障害者等の災害時要援護者が、いつ、誰と、どのように避難するか計画を作る必要があります。私も含め、障害者、家族から地域と繋がっていく大切さを痛感します。

さらに、9月3日時点での被害額は、農林水産業で約13億円、商工業で約36億円です。これから国・県の支援を受け、市からの支援を追加し、復興に向けて取り組んでいきます。

9月議会では、台風10号の影響で1日遅れて8日に代表質問に立ちました。コロナ禍における令和2年7月豪雨を中心に質問しました。

日頃からの皆々様の御支援、御協力に感謝申し上げますとともに、なお一層の力強いご指導、ご支援をよろしく願います。

2020年10月 大牟田市議会議員 古庄和秀

# だいひょうしつもん ほうこく 代表質問のご報告



期間：9月1日(火)～25日(金)  
補正予算決算含め全議案を可決  
8日(火)～10日(木) 質問戦が交わされ、補正予算、決算含め全議案を可決しました。

【主な議案】 ※詳しくは市議会報(11月1日号)  
議案件数：37件(専決5、決算：7、補正：5、条例：6、その他6、報告：8)補正予算の内容は裏面をご覧ください

9月8日に代表質問に立ちました。  
人口減少社会に入り、災害がますます甚大化する中において、今回のように一つのまちに複数の災害が起こることも想定しておく必要があるため、市長の政治姿勢とコロナ禍における令和2年7月豪雨と誰一人取り残さないまちづくりなどについて質問しました。  
以下の項目は市議会報11月1日号に掲載します。

- ① 市長の復興への決意
- ② 当日の避難状況と今後の課題
- ③ 市民生活への影響と今後の課題
- ④ 3年前のみなと校区からの要望と今回の浸水に対する考え
- ⑤ 今後の豪雨を見据えた総合的な排水対策

その他の質問項目を報告します。

## 1. コロナ禍における令和2年7月豪雨について

**問** みなと校区だけではなく、市長の語る懇談会などで、来年の梅雨前までに市長自ら地域に出向かれ、どういった課題があるかを聞かれたらいかがか？

**答** 地域の要望に応じ、被災状況の把握や支援策の説明を行っていく。御提案の市長と各地域との懇談会は、コロナの状況も踏まえながら検討していく。

**要望** 地域の役員会の意見と個人宅の事情はそれぞれ違うので、ぜひ検討願う。

**問** コロナ禍における災害ボランティアの活躍を取りまとめ、情報発信すべきではないか。

**答** 災害ボランティアセンターは、市社協の協力の下、7月9日に開設した。コロナ禍のなか4市2町に限定、様々な感染防止対策をして運営頂いた。民間のボランティア団体等とも連携・協力した。8月末で延べ343件、延べ1952人の方にボランティアとして参加頂いた。今後、市社協と協力し、新型コロナウイルス感染症防止を行いながらのセンター運営について取組実績や課題等を活動報告書として取りまとめ、他の地域の参考にして頂く。

**問** 今回の豪雨により多くの被害が出ている。コロナ禍のなか、6月以降、小売店や飲食店からはいつまで耐え切れるんだろかなどとの切実な御意見も多く伺う。事業者への影響と支援策、今後の課題について伺いたい。

**答** 今回の豪雨災害では、約450社、被害総額は約36億円に上る。被害事業者の支援は、国、県に強く要望してきた。7月31日にその概要が示された。災害復旧等に向けた補助制度と金融支援の大きく二つ。国、県の事業に加え、本市も上乘せ補助を行う。支援を受けられない事業者が出ないよう要望している。

**問** 申請しやすいように是非とも市内に申請窓口を作っていただけないか？

**答** まさにそのとおりだ。相談やサポートを行う申請支援窓口が必要不可欠。国、県と協議し、補助制度に関する一体的な申請支援窓口を市内に設置予定。(5日後の9月13日に商工会議所内に設置されました)

**要望** 中小企業だけが対象だが、支援の目的からすると一般社団法人やNPO法人の中小の福祉事業所も対象に含めるべきなので、ぜひとも国、県に要望されたい。

## 2. 令和2年7月豪雨と浸水被害について

**問** 少しずつ浸水被害を解消してきた雨水処理の歴史と今回の浸水被害をこれからの排水計画にどのように生かしていけるのか

**答** 本市の下水道事業は、昭和32年に事業を開始し計15回変更しながら、雨水・汚水処理施設を整備してきた。全国的にも早くから事業に着手をしたが、地形的な要因から浸水対策を優先的に進めてきた。現在は五つのポンプ場稼働しているが、老朽化しており、施設の更新等が課題だ。今後の浸水対策はこれから三川ポンプ場を含めた市内の雨水ポンプ場全体の整備効果を検討し進める予定だった。今回の豪雨を受け、全施設の耐水化事業が必要。また、三川ポンプ場は、排水機能の増強が必要で、現在の排水機能と同等以上のポンプ場を早急に整備していく。

**問** 3年前、みなと校区から機能強化の検討を要望されていた三川ポンプ場を止めざるを得なくなったことに対する企業管理者のお考えを伺いたい。

**答** 今回、観測史上最大となるこれまでに経験したことの無い豪雨により、三川ポンプ場も浸水し、全てのポンプを停止した。住民の皆様には、大変申し訳なく思っている。今回の件を重く受け止め、まずは三川ポンプ場の浸水対策を早急に行い、排水機能の増強を図る。

**要望** ぜひ二度と起こらないように要望する。また、地元住民からの要望の内容や事実関係は、正しく伝え、誤解がないように要望する。

## 3. コロナと豪雨災害からの復旧・復興について

**問** 今回の豪雨を各校区においても検証し、改善していく必要があるが、お考えを伺いたい。

**答** 毎年多くの校区において、地図上での危険箇所や避難経路を検証する図上訓練や、実働の避難訓練、避難所運営訓練などに取り組んでいる。その際に、豪雨時の地域における災害情報の共有、避難のタイミング、地域独自の避難所の運営などの対応状況を検証し、各校区の防災力向上に取り組むようお願いする。

**問** 防災ハザードマップの活用と地域と学校と連携した浸水マップ作りが必要だが、お考えを伺いたい。

**答** 防災ハザードマップは、河川氾濫、高潮、津波の浸水想定区域などを掲載し、6月に全戸配布した。地域の防災訓練、防災マップ作り、研修会などの防災活動や学校での防災学習の中で、防災マップを活用し地域ごとに避難経路や避難先を検討することができることから、今後も積極的に活用して頂きたい。

**要望** 明治校区を電動車いすで回り、独自の浸水マップを作り、特徴がわかった。各校区でも浸水マップを作ることを広められたい。

**問** 豪雨を受け、地域の役員と防災士が連携し、防災・減災の活動が必要だが、お考えは？

**答** 防災士養成講座を開催し、現在、64人が資格を取得された。地域によっては、防災士が避難訓練などで消防団や民生委員・児童委員と連携されている。防災士には災害時の被害拡大の軽減、災害発生後の被災者支援の活動、平常時における防災意識の啓発、自助・共助活動の訓練などが期待できるので、今後、各校区の消防団や民生委員・児童委員との連携が強化できるよう取り組む。

**要望** 残念ながら、どなたが防災士であるのか分からない校区があるので、検討されたい。

**問** コロナ対策と豪雨災害対応で、市長の御英断もあり、かなり財政支出をされている。必要な支援で、大いに評価する一方で、財政などへの影響を心配する。お考えを伺いたい。

**答** 本市独自の支援策は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、災害救助法の補助金や、激甚災害の補助率のかさ上げなどの国、県の財政支援を最大限活用していく。予算だけではなく、人員も必要となる。このため、将来を見据えた事業とともに、災害からの復旧・復興と災害に強いまちづくりなどを基本としていく。